礫陵新聞

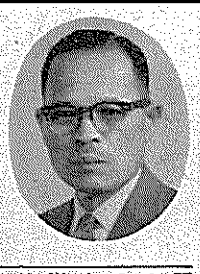
発行所
若松高校新聞部
北九州市若松区小石
発行　編集
若松高校新聞部
印刷所
吉田印刷所　☎5424

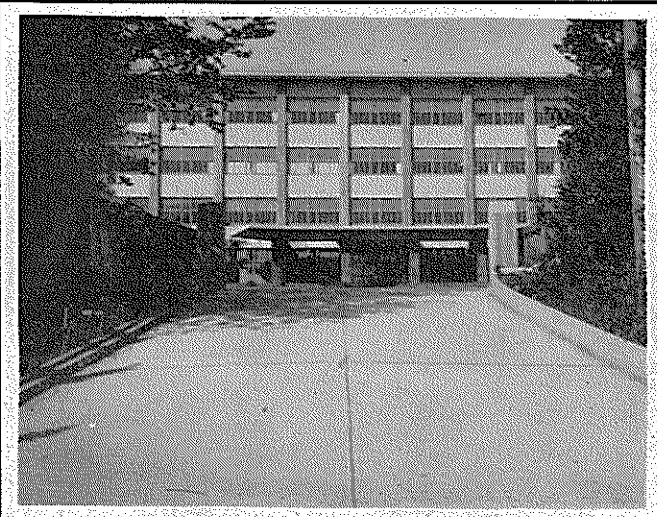
新入生に期待する

四月八日（金）昭和四十一年度新入生五三六名が桜の花も咲き揃う頃、はれてこの若高の校門をくぐった。入学式は体育館に於いて、直方高校より御赴任されてきた、石坂繁新校長を迎えて行なわれた。新一年生にとって、四月中はオリエンテーションの期間としてあてられ、歓迎遠足、クラブ紹介等若高の行事に接したが、これからも若高の一生徒として、恥ずかしくない態度を示し、楽しくて、有意義であるような高校生活を送ってもらいたい。

総て底辺は広く……

学校長　石坂　繁





若松高校への発令に接して先ず第一に頭に浮かんだことは未知の土地であること。旧知の方が殆ど居られないこと。旧校舎時代を少々知っていること。私の中学時代の恩師（校長）が、四代目の若松中学校長から、私の母校、嘉穂中学校に転任されてきたこと、佐藤前校長を多少存じ上げていること以上が若高に対する予備知識である。

殆ど白紙に近い、先の調のない頭で接する方が却って正態把握によいだろう。

四月八日に赴任して、若松区内の北傾に位置すること、海辺地区に比して意外に簡閑で空気もよさそうであること、本館棟上からは私の好きな墓地が散見されること、火災後、立派な学舎に改築されていること、先輩、職員、同窓会、地域社会の人々のお骨折りは大きかったであろうが、生徒は果してこのことをどのように受け留めているのだろうか、抱擁台に登る、北方の響灘、西方の石峯山、眺重絶佳、ここに学ぶ生徒への気宇に影響すること大なべしと思う。礫陵の丘山に学舎を卜したる先人の卓見を想思する、山本同窓会長、藤井教頭さんから学校概況を承わる。責任の重さを感ずる。学年度初日のためか厳然たる感を受く、先生方生徒の動きはスピーディーの感強し、数年に亘る改築工事の連続はその環境に住む者が無意識の裡に環境の虜になるものであるがと思う。皮相な見界かもわからない。先ず一カ月はゆっくり観察しよう。約十日間勤務して

一、地域へ

若松区が数年前訪れた時の印象と比較して石炭産業の影響を受ける事の如何に大きいかを痛感する。予想より廃墟も少ないようである。街の家並も活力の乏しさを思う。北九州市の西偏に位するハンディの排除策は？区民の心裡にもこの影響はあるのではないか。本校生徒への影響は？

二、生徒諸君へ

二、三のクラブ活動を覗知する程度では全貌は掴めないが可成り積極性と自主性が感じられる。生徒の眼光と血色は？円らな眼に純心さを感ずる。混濁していない。これならば将来への地みちな活力は充分に潜在している筈である。然し果たして全員に然るかはわからない。十七日菊地杯争奪戦に参加して地域の剣道界の雰囲気を肌に感ずる。総て底辺が広くなければ泰山は聳立しないものだと思う。

三、一年生へ

胸ふくらませて各人期する所目的を抱いて入学した四月八日に私も若高校長としては一年生として本校に第一歩を印した。入学式に諸君に語った誓約を再述する。

一、本校生として誇りを持つ。

自慢に思うのではない。自負である。自己の立場に伴う責任と自己を見つめることのできる人間たるべく努力を続けることである。

二、学ぶことは？

自己の行為に対する価値判断のできる能力を養うことである。物事に対して理解することはそのものを批判することであり、批判の主体は自己である。自分という「フルイ」の目が粗であれば、その批判は往々にして正鵠を逸することとなる。

対人関係に陥っては↓自己主張も必要であるが一度は他人の立場に自己を置き替えて考える余裕を持ちたいものである。絶対反対の概念は再考を要すると思う。友人の欠点よりも美点の発見に努めよう。

老人、先輩の常套語に一体（命）あってのものだねーと言われるが諸君の年代層こそは体力の基礎造りの時代と思う。二十代を過ぎれば十代に創られた体力を基として積み重ねを繰り返えす以外には方法はないものであることを謳られたい。

二、二年生へ

高校生活にも一応は馴れて来た。新鮮味を失いかけてはいないか。俗に惰性の時期と言われる。それだけに梶の執り方如何によっては学時の秀才鳳村と化し、牛歩の亀歩者が優者となるの、分岐点である。本当の学当時の「初心忘恵」を再考熟慮を望む。

三、三年生へ

クラブ活動に、勉強において、マイペースに加速度の増すもの。自的 意識の揺らぐもの、自信喪失、スランプ等の型があると思うが後者の裡に伏在する共通のものは無心ではないか。自分だけがこうあるのではないか？という考えは払拭されよ。真の秀才は十五、六万人に一人だといわれる。誰も同じ道を歩いているのだ。

There is no road without turnning は私の中学三年時代に読んで記憶に残る銘句である。日常生活万法の転換、先輩親友、恩師の門を叩け。必ず路は拓けるものである。

自己紹介（新聞部の所望辞しがたく）学校名は現在の呼称

一、飯塚市生れ、嘉穂高校を経て広島大学内に在った教員養成所卒、同、研究科に学ぶ。

三、職歴

田川高校、新潟県高田高校、嘉穂東高校、北九州高校、直方高校本校へ、七校目である。転任居歴十四回、家財道具の荷物造りに上達す。

三、家族

長女（嫁す）長男、東京就職、次男、大学在学。三男、高三在学妻健在。家族の入院、子供の看護の経験なし。四、性格（自己診断）己かなく楽天、小心。誰れとでも話すこと。話題を過去に求めることをきは年令の勢か、反省の要を認む。

五・六月行事予定

五月中旬　生徒大会
中間考査
下旬　合唱コンクール
六月一日　更衣
下旬　期末考査

教育目標を指針とせよ

総務部長　藤井正己

風の吹き通す旧体育館で、紅白幕で風を防ぎ乍ら行なわれた一昨年の入学式、まだ内部整装の済まない新体育館で、在校生が大急ぎで清掃してくれた白木の床の上での昨年の入学式、そして、完成されたばかりの新しく壮麗な体育館での、ゆったりした例年の入学式、この入学式三題が若高史のうつり変りと、校舎改築の進み方とを、表わしている。

しかし、建物は違っても入学式の雰囲気、新入生諸君の喜びや感激、これから大いに努力しようという心構えは、毎年驚にみなぎりひしひしと感じられる。

この新入生諸君が、全員、この感激を忘れず、十分勉強し、よく運動し、心豊かな高校生となり、若高の校風をより良くし、有為の材として社会に巣立つため、これからの三カ年を充実して送って頂きたいと願わざるを得ない。

既に、入学後二旬を経て、高校生の在り方について自覚が出来つつあると思うが、若高の教育目標を掲げて諸君の指針としたい。

一、社会の指導的立場に立つものとしての自覚をもち、それにふさわしい責任感を培う。

二、感謝の心を深め、他人の人格を尊重し、全体のために奉仕する。

特に本年度は次の三点を努力点として徹底を期したい。

一、真理の探求

①正課授業の充実

②自主的、自発的、自発的な学習態度の育成＝真の学習は、己を鍛える厳しい精神の下に成就するものである。厳正な受講態度を養い、予復習を必ず行う。

二、豊かな学園生活の樹立

①生活規律の確立＝校則を守り自律的に行動する習慣を養う

②反情を深める＝高校生活はよき友を得る機会である。

③教師と生徒の交流＝人間的接触によって心のつながりを強念を強くする。

三、ものを愛護する精神を高め、勤労を学び環境の整備につとめる

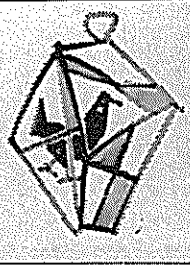
四、学問への意欲を深め、自己を打込んで真理の探求につとめる精神を養う。

五、強い意志と豊かな情操を持って知識を生かすことに努める。

六、環境の美化

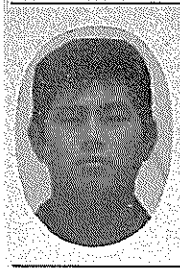
①内外掃の励行徹底＝心身の健康を保ち、勤労精神を養う。

②公共物の愛護＝校具を大切に扱い、後輩に伝えよう。



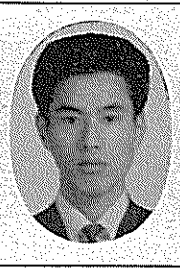
先生！お願いします

校長先生をはじめ、添田先生、藤先生がこの学校を去っていかれたが、この度、大学を卒業されたファイト満々の先生やベテランの先生など五人が赴任して来られた。そこで、出身校や今後の抱負を、次の要領でインタビューしてみた。一、担当科目、二出身校、三、現住所四、第一印象、五、趣味、六、抱負



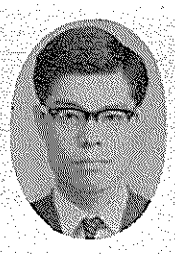
下川良彦　先生

一、柔道
二、若松区西園町八の十三
三、日本体育大学
四、（ニヤリとして）何でも良かったので、言うことがない
五、たまに映画に行く
六、他の先生になじんで、頑張って行きたい



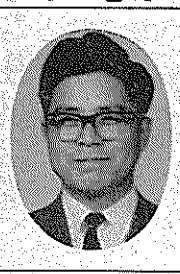
今仁勝彦　先生

一、化学
二、区内西園町八ノ一三宮村方
三、近畿大学工学部
四、女生徒しか教えていないのでわからないが、女の子はおとなしい
五、あまりないが、映画・音楽の鑑賞が好きです
六、たくさんあるが、女生徒は、もう少し元気を出してほしい



阿部紀夫　先生

一、国語
二、若松区山の堂町四の五木村方
三、早稲田大学
四、生徒の皆さんがはつらつとしていてうれしい気がしました
五、特別にありません
六、生徒の皆さんと楽しく生活したいと思います



久保田昌秀　先生

一、地理
二、若松区中畑町七番地の八
三、広島大学
四、前の学校に比べて、生徒がのびのびしている
五、スポーツ
六、自分の母校であることだし、後輩である生徒諸君が、りっぱな社会人になる手助けをしたい

臼杵靖子　先生

一、音楽
二、国立音楽学校
三、若松区老松町八丁目
四、すばらしい校舎でみんなと勉強できることをうれしく思います
五、いけ花
六、わかりません（ニコニコ）

礫陵言

四月八日、新一年五三六名を迎えて、本校史上部の三十学級、生徒数一、六五〇名を数えることになった。これに伴なって、先生の担負も重護教諭を入れると、六〇名の大台にのせ、県下でも東筑、明善などに次ぐ大高校となったわけである。

おそらく今後これ以上ふくらむことはないと思われるが、このような学園のマンモス化につれて考えねばならぬことも多々あるようだ。第一はこの大集団の足並みを一つにそろえて、しかも個々の目的を達成させるという、全体と個のよき調和をはかるということだ。これには一方で学園の秩序と規律を守りながら、その中で各自の能力いっぱいに精進努力をしてもらうということ以外にはない。

このような大集団では、個人の恣意はみとめられない。依組として跡をたたない盗難事件や、公共物の破壊行為などは、すみやかに、除去して、背が安心して勉強できる精神的環境を作り上げることが急務である。そういう環境のなかでしか先生の指導も十分には生かされまい。

第二は先生も含めて、学園全体が学問研修のムードを作り上げるということだ。すでに先生方は色々な困難にもかかわらず研修は制度を作って、週に一度はじっくり専門の教科について研究する態勢を確立した。これは世評一般には誤解されている向きもあるが、要は、週に一日は授業のない日を時間割の上で作って、この日だけはあらゆるを務と心労から解放されようということだ。事実これまでの日々は雑務と会議が優先して肝腎の授業がつけたりといった感なきにしもあらずといった状況であった。したがって、教材研究や授業のための準備、フィールドワークなども極めて不十分で、ぶっつけ本番式の授業も余儀なくされたものだ。これは生徒にとっても大きな損失であったはずだ。

目にみえぬ先生の方もその点に立って今度の改革をはかったわけだから、諸君もその意を体して、先生にまけないよう十分の研究精進をしてもらいたいものだ。そういう雰囲気が醸されてくれば、また前述のようなさきいな不祥事も未然に除去できるのではなかろうか。（よ）

練りに練った予算案

各クラブの1年間を運営するのに絶対に欠かす事の出来ない本年度予算が、4月22日に決定されました。これまでに至るには、数多くの問題や苦心があった事と思います。第1次、第2次査定と慎重に慎重を重ねると同時に、各部相応の金額を割り当てることは、一見どうにでもなりそうであるがこれほど容易でない仕事はありません。そこで私達クラブ員は、この苦心のほどを常時忘れずに、ムダをする事のない様に心がけ、良い成果を出す為に、努力することを約束しようではありませんか。

総務部	686,600
文化部	539,263
運動部	1,271,060
遠征費	850,000
合計	3,346,923

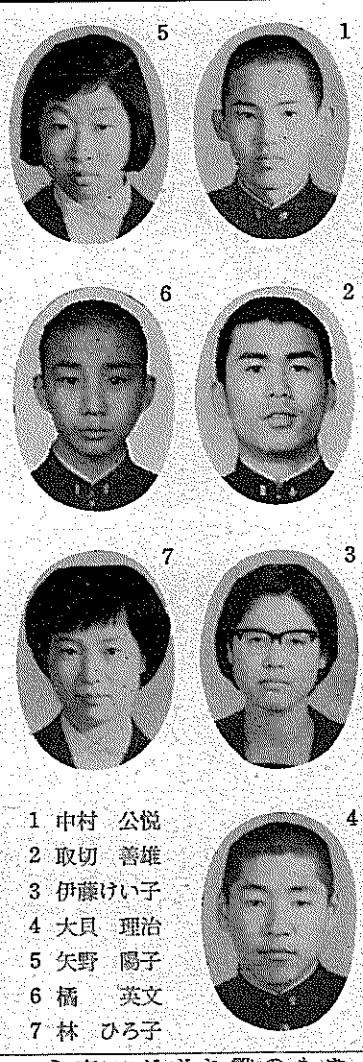
費目	41年度	費目	41年度
クラブ派遣費	—	予餞会	20,000
オリエンテーション	10,000	応援団費	20,000
運動会補助費	40,000	校内競技会	3,000
校内マラソン大会	21,000	記念行事費	—
校内駅伝大会	20,000	校内弁論大会	1,000
治療費	5,000	事務協議費	24,000
他校交流費	15,000	書記局活動費	210,000
用紙代	150,000	慶弔費	20,000
家庭クラブ費	10,600	文化祭費	25,000
若戸大会費	20,000	朝日体育祭	—
礫陵作成費	72,000	計	686,600

クラブ名	40年度予算	41年度予算	クラブ名	40年度予算	41年度予算
文芸	31,880	34,610	生物	36,715	39,093
物理	34,630	40,100	化学	28,230	33,370
地理	26,055	30,510	歴史	30,100	30,530
英会話	13,000	15,940	演劇	33,170	37,430
人形劇	29,670	27,440	映画	12,070	14,840
写真	23,630	23,945	音楽	19,000	22,860
新聞	34,965	18,965	華道	13,200	13,400
茶道	21,775	27,680	箏曲	8,550	8,910
美術	25,595	31,890	吹奏楽	68,725	72,100
放送	7,650	15,650			
野球	202,850	229,360	庭球	79,360	83,200
卓球	51,950	55,500	ラグビー	121,715	140,720
バスケット	118,820	141,600	排球	84,550	98,810
陸上	64,250	71,090	水泳	38,850	44,350
山岳	32,330	33,700	体操	50,060	62,855
柔道	49,330	44,970	剣道	12,420	130,830
弓道	52,730	57,285	ハンドボール	20,000	76,830
小計	821,110	900,195	小計	656,715	910,128

一般生徒は潤滑油

第四十一年度前期生徒会

▽私達の最大行事である、前期生徒会役員選挙が去る四月二十三日に行なわれ、一年を一人交えた、新生徒会が誕生した。△▽結果は会長中村公悦君（二ノ七）　副会長、取切善雄君（二ノ四）　伊藤けい子さん（二ノ二）　会計、大貝理治君（二ノ三）　矢野陽子さん（二ノ六）　書記、林ひろ子さん（二ノ四）　橘英文君（一ノ二）に決まった。今回の選挙については、△▽各クラスから一名は立候補させるということだったので、前回の選挙より選挙管理委員の苦労は少なかったようである。△



1 中村　公悦
2 取切　善雄
3 伊藤けい子
4 大貝　理治
5 矢野　陽子
6 橘　英文
7 林　ひろ子

去る四月二十二日（金）、昭和四十一年度前期生徒会役員立候補者の立会演説が行なわれた。今回は会長三名、副会長五名、会計五名、書記五名と、例年に比べ立候補者の数も多くかなりの競争率だった。演説の方も立候補者とそれぞれの応援演説者が熱弁を奮い、聞いている方が圧倒された感が強かった。しかし、その内容にいささか疑問を感じた生徒諸君も少なくはなかったようだ。もうすこし立会演説の意義を考えなくてはいけないのではないだろうか。また聞いている方の生徒諸君の態度も同様である。もし本当に理解している生徒ならば、どの人が我々のために尽くしてくれるか熱心に聞くはずである。若高は我々の学校なのだから我々でよりよい学校にしなくては誰がしてくれるだろう。もう一度生徒会のあり方を考え、自分の立場をよく理解してもらいたい。どうも若高生は人の話を聞く態度がなってないようだ。校風一年生にとっては少し寂しい新執行部だが、今後の活躍は大いに期待される。しかし、なんといっても生徒諸君の協力がないことには、執行部としても身動きが出来ないのだから、いわばみんなは潤滑油の働きをするわけである。しかし現在の状態ではその役割を充分果たしているとは言えない。そこで諸君の協力をお願いしたい。そのためには、投書箱をフルに活用し、執行部の方としても、学級との連絡をスムースにするためになんらかの対策をこうじて欲しいものだ。その一環として、執行部の行動に助言を与えたりする会を設けてはどうだろうか。むろんこれはたとえばの話ではあるが、いずれにせよあと一歩の前進が必要だと思う。

又、前期執行部の仕事としては文化祭、体育祭等我々にとって関心の深い行事をひかえている。最近では高校も予備校化しつつある中で、真の学生生活の楽しさを教えてくれるものは、生徒会活動ではないだろうか。むろんその中にはクラブ活動も含まれている。そこで、会長の中村君をはじめ執行部員の活動に注目し、我々生徒も出来るかぎりの協力をし、若高生徒会をよりよいものにしようではありませんか。

尚、投票結果は次の通りである。

会長　中村公悦　八九二
副会長　伊藤けい子　六〇四
　　取切善雄　五三一
書記　林ひろ子　八七〇
　　橘　英文　六九一
会計　矢野陽子　一〇四〇
　　大貝理治　七〇五
以上

反省すべき態度

選挙管理委員長　吉田　悟

昭和四十一年度前期生徒会役員選挙が無事に終って一息しているところです。選挙管理委員会が発足したのが十三日で、たいしたことはないだろうと、ただなんの気なしに引き受けましたが、予想に反して非常に忙しい毎日がそれから十日余り続きました。幸い三年生が何もわからない僕をよく指導し、引き立ててくださったのでなんとか大役を果たすことが出来ました。立候補者の件に対しては一部の反対を受けましたが、一、二年の各組から一名以上出してもらうことにしました。これは選挙管理委員会で話し合った末、若高は生徒会役員選挙で立候補者が少しか出ないと言う過去の例から決まったことです。それにもかかわらず立候補締切予定日になっても会長の立候補者が一名も出ずに公示が二日も遅れる結果となりました。体育館の二階による応援、立会演説のときの聴衆の態度（特に一年生）は大変悪かったように思う。音響効果が悪かったり、時間がかかり過ぎたせいもあるが、もう少しまじめに聞いて欲しかった。投票は各組別に行なったが投票率も非常に高く無効票も殆んどなくまずまずでしたが、もう少し真剣に考えて投票して欲しかった。このように皆に対する要望は次から次へと限りなくうかんでくる。五月一日より生徒会執行部は新役員に代わる訳であるが、僕はこの十数日間選挙管理委員長として行動してきて、高校の生徒会執行部とはどんなものかを再認識させられたのと同時に、いかに皆は生徒会と言うものに無関心であることを感じさせられた立派な生徒会を作る為には、皆が若高の生徒会会員であることをはっきりと自覚し、これからは誰からも強制されることなしに積極的に立候補して欲しいと思う。僕もなんとかこの大役をやりとげることが出来て、満足しています。

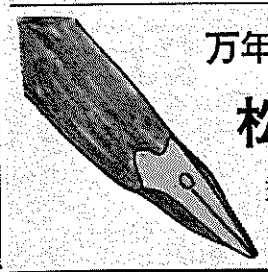
前向きの姿勢で

会長　中村公悦

どういう訳か僕が会長になってしまいましたが、演説の時にも申しましたように全くやれるかどうか、自信がありません。しかしいつまでもこのようなことを言ってもらちがあきません。当選した以上は少なくとも、その義務だけは遂行しなければならないと考えております。僕にはこれという抱負はありませんが、ただ「人遊りならずして環境ならず」とでもいうことでしょうか。ともかく、学園は学園らしい環境を持たねばなりません。すなわち三年の皆様には校内の煩わしい問題になるだけ頭を使わず、勉学に励めるよう、努力するつもりです。二年生には何かにつけて一年生を引っ張っていって欲しい。力強い機関車の「若高号」を。一年生には、これから朱バラ色の高校生活が送れるような、環境をつくりたいと思っています。その具体策は只今思案中。ただ言えることは、「前向きの姿勢」で任務を取り組んでいくということです。幸い書記局に前年度の役員経験者も入ってくれるとのことで心強く思っています。彼等の手助けを借り他の六人の役員と力を合わせ、全力を尽したいと思っていますので、どうぞ皆様のご協力をお願い致します。それから生徒会室は旧武道場の隣りですから、生徒会に関する話しのある人は、気軽に入って来て下さい。

主張　身近かな生徒会を

去る二十二日に恒例の生徒会役員の投票がはなばなしく行なわれた。今回は、ここ数年間ではまれにみる多数の立候補者であった。この投票は二・五倍から四倍という競争率で、選ばれた役員も、本当に皆からの支持を受けたと活気に満ちていることと思う。そこでこの生徒会に要求したいことは、特色のある生徒会を作ってほしいということである。この生徒会に限らずそうであるが、ただ年中行事のみを行ない、又、それに振り回されるような生徒会は自主的で活気のある生徒会とはいえない。前の生徒会が行なっていたようなことをそのまま受け継いだのではその生徒会は少しも発展して行かない。発展しない生徒会というものは生徒が関心を示さず、ついには無視されていくようなことになる。そこで問題になってくるのが、やはり今までの生徒会が一番の課題としてきた生徒の生徒会に対する関心ということだろう。関心を持たせる為には生徒会を身近に感じるようにすればよい。その為には生徒と接する機会を多く作ることが必要だと思う。良い例に前の生徒会が三学期に行なった半強制的ではあったが、各教室を回って直接に皆と話し合った試みがある。この訪問によって皆は比較的多くの質問なり意見を言っていたようで、少なくとも今までよりは生徒会に親しみを感じたと思う。このように生徒会は生徒の意見を待つのではなく積極的に皆に接していくことが大事なことである。これは前生徒会の最大の特色だったと言える。新生徒会も積極的に生徒会に感心を持たせるように対策をこうじて欲しい。しかし、何と言っても生徒会を左右する者は我々生徒である。いくら生徒会の方で努力しても我々が協力しなければ何も効果は上がらない。だから我々がその態勢を整えなければならない。しかし、現在の若高生は協力する態勢どころか、気持ちもないといっても過言ではないだろう。集会を例に取ると、今まで先生に注意されることなく自主的に集まった例はない。その良い実例は二十二日に開かれた演説会での態度である。デタラメの一言につきる。あの時の候補者の話を聞いていた人は何人いるだろう。聞かないのならまだしも、その演説を遮るような拍手や、口笛は何の為だろう。もちろん候補者の中にも感心できない態度の者が少しいたようだったが、又人の物を盗んではいけないことは当り前の事だ。たとえ大きな物であろうと小さな物であろうと盗みには違いない。そして、盗まれた時の不愉快さは我々のほとんどの者が身を持って体験しているはずである。若高に、目には目を、歯には歯を、という法則が横行しているのは悲しいことである。又、我々の周りの物でまだまともな物はどれ程あるだろうか。公共物の愛護などと今まで何十回、何百回となく聞かされたが、実際には少しも守られていない。これが現在の若高の状態なのである。この状態で我々の校風を作ろうとしているのだからどんな校風が出来ると言うのだろう。いくら生徒会の方だけで一生懸命になったところでまともな校風ができるわけがない。結局からまわりで終る。我々はもっともっと自分の行動に責任を持つべきだと思う。現在、予備校化されつつあるといわれている若高でよりよい学園生活を送ろうと思うのなら、その土台とも言うべき生徒会に皆しむことなく協力することが一番の方法となるのではないだろうか。生徒会を我々生徒が本当に結び合った時こそ始めて真の若高の発展があるといえる。


万年筆の
松永太陽堂
若松区本町銀座通り
TEL ⑯ 2721

時計・メガネ・印章
マルミツ
若松区中川通り二丁目
TEL ⑰ 2638

若松区本町四丁目
阿部金物店
営業所　若松区大井戸通り
TEL ⑯ 3100

オリエンテーション

成果はいかに

緑と花の香がほのかに匂う四月に、オリエンテーションが行なわれた。一年生の中にはオリエンテーションの意味が、わからない人も多勢いたと思う。

生徒会では今年も恒例のクラブ紹介が四月九日（土）に、夢と希望に張ちきれそうな一年生を、講堂に集め新入生が少しでもクラブ活動に興味を持ち、より多く入部することを氣んで熱弁が奮われた。また四月十九日（火）に平尾台へ、一年生と親密度を深める目的で歓迎遠足が行なわれた。平尾台では、いつもの緊張した授業から解放されて、フォークダンスや学級レクレーションなどで楽しんでいた。一年生は、二、三年生に比べておおいに意義のある日だったと思う。

歓迎遠足

青く澄みきった大空の中に、羊の群が続いているような小高い丘麓。ここ平尾台に於て去る四月十九日（火）、オリエンテーションの一環として歓迎遠足が行なわれた。

昨年は潮干狩だったが、全校生徒にアンケートをとった結果、平尾台となったものである。

新一年生の間では潮干狩に行きたかった者も多少いたようであったが……。

バス三〇台を連らねて一〇時三〇分、吹上げ峠着、一一時、一年生を拍手で迎えた後、昭和四十一年度前期生徒会立候補者の紹介、諸注意があり解散。各自、自由行動に移った。

自由行動ではまず昼食を済ましたり鐘乳洞に行く者もいた。

次は、各クラスの親密度を深める為にクラスごとにリクレーションを行なった。この時間を利用して大部分の者がバレーボールを行なっていた。暖かい日射しを体全体に受けて伸び伸びとやっている姿は、本当に健康的で学生らしいものであった。

次にフォークダンスがあった。最初は女子が多すぎて男子が入りにくかったようだが徐々に男子も増してきた。

次に遠足について、皆なの感想を述べてみよう。

◎潮干狩だと必死で貝を取るだけで、歓迎遠足という意味ではこちらの方が良かった。

◎まだまとまっていなかったクラスもバスの中の和やかな雰囲気で前よりも大分うち解けてきたようだ。

◎中学生時代の遠足とはまた違った雰囲気で、大変自主性に富んでいた。

◎フォークダンスについては、二、三年生は希望者だけという事になっていたので、やらない人が沢山いて、変なヤジをとばす人が多かったので、全員参加という事にした方が良かったのではないか。

◎土埃が立込めていたので、水をまくとか他の場所に代えるとかいう事はできなかったのか。

◎グラブに入ってない人等は普段上級生と接する機会があまりないので親密度が高まり良かった。

◎一年生のフォークダンス参加者が少なかった。一年生の歓迎遠足なのだから、もっと参加して欲しかった。

◎場所が狭いので三重円にする等して、もっとスムーズにできなかったか。（フォークダンス時）

◎いつも同じ曲ばかりなので、違う曲も交えた方が良かった。

◎恥ずかしかったが、とても面白かった。

◎全体に時間が短かったようだ。それなのに、フォークダンスの最初の時、多少もたついた。このような事にならないように、綿密に計画を立て、生徒自身も積極的に参加した方が良かった。

いろいろ批判の声もあったが、中でも特に時間厳守については反省させられる点が多かったのではなかったか。しかしとにもかくにも歓迎遠足の意味は十分果され、一年生諸君は高校生活の一端をかじる事ができ、大いに効果があったと思う。

これを機会に今後三年間の高校生活を多いにエンジョイしてもらいたい。

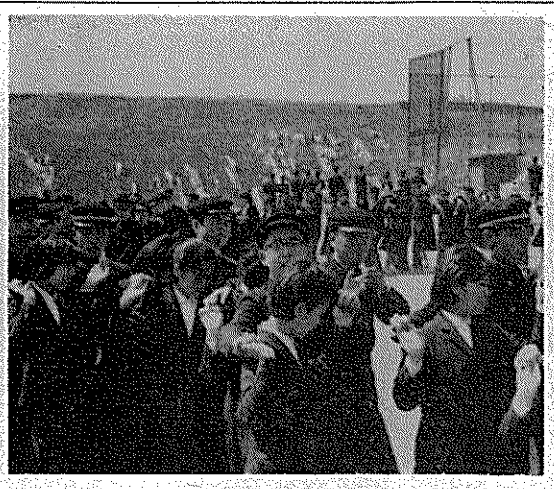
クラブ紹介

四月九日（土）オリエンテーションの一環として放課後、新設されて間もない体育館に於いて、生徒会執行部、各クラブ部長を中心に催された。

高校に入学して興味深いものの一つであるクラブ活動を、よりよく一年生にわからせる為に開かれたこの会、昨年はまだ体育館が使用できず、男女別で行なわれた。しかし、今年は全員を集めて行なわれただけあって、昨年とは少し違った点が見られた。クラブの説明ばかり続けて聞くと、退屈だろうと思われたのか、クラブ紹介の中に、人形劇、演劇、音楽の各クラブの実演を折り込んでいた。たが漠然とクラブを紹介するだけではなく、実演を兼ねて紹介することはどんなに、気分を和げるだろうか。また、どんなにかクラブ活動というものに興味をおぼえるだろう。

ただ、今年のクラブ紹介の欠点は、もう少し各クラブ部長がもっと内容を充実したものにしてほしかった。「たった二～三分間のスピーチで何が充実したものが発表されるか！」という声もあった。クラブ紹介というものは、一年生の諸君により多く、クラブ活動に参加してもらうことである。そのクラブの活動等を真から一年生諸君にわかってもらうには最低五分間位、時間がいるものではなかろうか、こういうところに、今後の生徒会の一つの課題として残るだろう。もう一つ、今年は昨年に比べて〝ヤジ〟が非常に多かった。せっかく、各クラブ部長が発表し、一年生の諸君が真剣に聞き入っているのに……。気分をこわすようで何だか見ぐるしいし、聞き苦しい、もっと静かにしてやってほしかった。

最後に一言、一年生諸君に言っておきたい！今、君達が入部しているクラブを、よほどの事情がない限り、若高クラブ活動の発展の為に、末長く続けてもらいたい。



フォークダンスを楽しむ

ちょっと一言

どちらが悪い？

近頃、若高で盗難の被害が多いようである。しかし、被害者の届けが余りにも少ない。これでは盗まれた品物がでてきてもどうにもならないではないか。自分で買った物、あるいは親から買ってもらった物をこのように粗末にしてよいのだろうか。

この理由としては、第一に、所持品に名前が書かれていない。名前が書かれていなければ、難にとられても、それが自分のものであるか、他人のものであるか区別がつかない。たとえだれかが先生に品物を届けても、これもまた、自分のであるかないかわからない。

第二にみんなはもっと自分の所持品に気を配るべきだ。みんなが帰った後の教室、下足箱を見てみろ！スリッパがたくさん残っている。

こういう点にもっと気を配るべきであろう。貴重品にしても体育の授業がある時は、貴重品袋という立派なものがあるではないか。なぜ利用するものを利用しないのだろう。もっと利用するべきものは利用するべきだ。だから、「所持品には必ず名前を書くこと」「もう少し自分のものに気を配ること」を必ず守ってもらいたい。

先生宅訪問

優しくて子煩悩で

生物部顧問　岩田先生の巻

地学・生物を担当され、生物部の顧問をしておられる岩田先生をお訪ねした。御家族（先生、奥様、二才になる真由美ちゃん）そろって、喜んで我々を迎えて下さった。最初から、陽気な真由美ちゃんが人気者で、一同はしきりに真由美ちゃんを注目。そうしているうちに奥様がコーヒーをいれて下さった。

落ち着いたところで、早速質問に移った。先ず、先生の御出身地、出身学校を尋ねた。ここ八幡御出身、前田小、花尾中、八幡高校を卒業され熊本大学に進まれた。専攻は理学部。卒業後、山門高校に三年間、そして現在に至っている。

「山門高校と若高を比較してどうでしょうか？」「そうですね あちらでは伝統的なものもあり、よく勉強していました。その点若高はクラブ活動が活発で、生徒が伸び伸びしている感じですね。本人は勉強を一生懸命やっているのでしょうが、側から見るとそうは思えない。しかし、若高生は礼儀正しく、立派な生徒が多いと思う。盗難があった時には、君たちがやったとは思えない。そういう点では生徒を信頼している」

「若高生に対して希望はありませんか？」

「まあ、誰でも同じようなことが言えるでしょうが、自分の将来を早く見きわめて、最大限の努力を払うことですね」

着いた時には工場の騒音が聞こえていたが、陋に花が咲いたせいか、余り感じなくなった。それに、先生は思ったより親しみやすく、家庭的な感じがした。

次に先生の高校時代の思い出を尋ねた。

「高校時代はよく山に登りました。北九州の山でしたらほとんど。また放課後になると図書館にいったものです」こんなところからも勤勉なお人柄が窺える。そこで読書を聞いてみた。読書は余り好きれず、現在は専攻課目の本を少しくらい。そして大学時代は「変わったものを」と馬術部に入部されたそうだ。とにかく見ているより、自分で実際に行なうという能動型だそうだ。そこで、今度は奥様に尋ねてみた。

「奥様からどらんになった先生の感じは？」「むずかしい質問だ。強いて言えば旅行くらいです。九州は各地を回りました」

また、先生は大変動物好きで山門高校に通っておられた時は鶏を抱いて寝ておられたそうだ。

ここに生物を担当されている一つの故がある と思った。

「最後にこれからの抱負は？」

「惰性でいくということがあるが、何か一つ成し遂げたい」

御家族の写真を頂き、厚くお礼を申し上げて失礼した。

辞典と参考書
石松書店
本町四丁目　TEL ⑯ 2415

香りと味のお茶の店
松井松緑園
本町六丁目　TEL ⑯ 2649

服飾材料専門店
手芸講習毎週金曜日
午後2時より
7時まで
しらき
若松区明治町三丁目
TEL ⑯ 3686

撮影・D・P・E
大和写真工芸
若松区小石峠　TEL ⑰ 3173

特製の制帽
片山帽子店
若松区中川通二丁目（丸柏前）

文芸

詩歌

望春

原口悦郎

陽光照り　花咲く
雪折れし
死枝が招く
雪に咲く
紅き六重の花が

日の照る
陽春を
敷きつめられし
花のじゅうたんを

雨にうたるる
人の姿
雨にうたるる
花のじゅうたん
赤土の跡が
続くのみ

陽光照り
花咲く

黒い心

黒い心が光を呼ぶ
闇に顔をうずめ
あがき
この夜も闇に戦う

この世界が
カラリと爆発した時
まぶしいこの目で
澄みきった青空を見つめる時
おれは悟るだろう
喜びの中の希望の太陽を

人事

富士次郎

岸にうち寄する波
怒濤、岩を打ち砕　小波、礫を濡る
これすべて
波のなせる業なるや
何処へか流れゆく河
豪水、堤を越えゆき　流奔、砂土を運ぶ
これすべて
河のなせる業なるや

人事すべて
波を指し、河をさす
他ぞ源を知らざる

野ばら

高橋恵子

温室育ちのバラがありました
燃える様に赤い大きなバラでした

バラは外を見たいと思いました
広い世界に行きたいと思いました

やがてバラは、温室の外に投げ出されました
外は寒くて、こごえそうでした

燃える花びらも、だんだん色あせてきました
葉っぱもしおれ、今にも死にそうでした

その時バラは、自分のそばに生きている
雑草と仲良しになりました
雑草は言いました
〃そんな大きい花なんか捨ててしまえよ
そしてもっとじょうぶな芽になるんだ
そんな芽じゃ、こんな所では暮せないよ〃

バラは決心しました
燃える様な大きな花を捨てました

そして、残り火のような花をつけました
細いけれど、じょうぶな芽になりました

そのバラは今もあの道に咲いています
可愛い、野ばらとなって、強くのびのびと……。

運命

石山純子

どこからともなく聞こえてくる
〃運命〃は
今の私の気持を歌っている
こうなったのも運命のいたずらかもしれない
激しく冷たく私の耳にくいいる
音楽……
勉強が何サ
思い出が何サ
こんな強がりを言っても
瞳には
いっぱいの真珠があふれている

あてもなくさまよう私
そこには
虫ケラがなんとか勝とうとして
冷たく、きびしい生存競争をおこしている
そしてやがて敗北者は、枯れ、死んでゆく
これが〃運命〃だろうか
今も私の心には
〃運命〃の音楽が無気味に鳴り響いている

私は、この世の汚れを知った
汚れた汚れたこの世界を
他人を利用し
他人をいびつする
こんな醜い競争が生物によっておこる
私は訴えたい
この世の中が憎いと
でも、これも〃運命〃かもしれない
〃運命〃の音楽はいつも私の耳から離れない

私は一個の人間でありたい
だれにも左右されない
だれにも頭をさげない
一個の人間でありたい
〃運命〃は、まだまだ私の心の奥深くまで鳴り響いている
無気味な音楽となって
静かに流れている
今もなお、やむ事なく静かに流れている

春のそよ風

荒川暁美

春のそよ風が
私の耳にささやいています
ある少女の思い出を
私の心によみがえらせます
ある少女……

それは
春の日のことだった
レンゲ畑のあぜ道で
一人の少女を知った
清らかな笑顔の少女だった
夢みるような瞳の少女だった
だが、その少女は
数日後
私の目の前から去っていった
私の目の奥に笑顔を残して……
その日は
春の嵐の日だった
小さな手の中に
しっかりと十字架をにぎって
静かにほほえみを浮かべて
天への使いとして
私の目の前から去っていった
小さな十字架と
清らかなほほえみを
私への形見として
小さな天使となってしまった
清らかな思い出を残して……

春のそよ風が
いつまでも、いつまでも
その少女の思い出をたどっています
私の心の奥に悲しい一瞬に
やさしいそよ風が
今もやさしく吹いています
まるで
あの少女の笑顔のように……

随筆

がいな奴

富士次郎

ふと目に止まったテレビ番組に「がいな奴」というのがあった。変な題だなと思い、チャンネルを合わせてみると菊地寛の若き日の姿であった。

彼は近、現代の文学者の中でも全く特異な存在で、大きな特長は彼には文学至上主義的なものが全然ないということであろう。他の文学者は清貧の中に文学を求めていきました。しかし彼にはそれがなく金のために作品を書き、そして売ったのであります。彼の作品としては高校生活最初の年に、現代国語の中で「形」を勉強しましたし、これは営利を目的とするためではありませんでしたが、我々にとって身近な耶馬渓を舞台にした「恩讐の彼方に」等が思い出されます。全く彼の作品はバイタリティーに富んでいます。従って自殺に憧れるような太宰や芥川にみられるか細い神経の持主ではなく生命力に満ちあふれています。女性にとっては魅力ある存在ではないでしょうか。そうそう彼は結婚をしましたが、これも生活の安定を得るためであったことは疑えないいろいろな人々がいますが、彼が文芸春秋と大映の社長になったというのも面白いではありませんか。

彼の現実を力いっぱい生き、金を目的にしながら生きたということに嫌悪を感じる人は彼の文学を理解していないのではないかと思います。彼のような文学者はもう二度と現われないだろうといわれる程の文学を理解していないのではないかと思います。

面白いことに彼の最も偉大な業績の一つとして芥川龍之介を世に送り出したということです。全く正反対な性格の彼を、誰もみむきもしなかった芥川の文学に彼は目をとめ芥川をこの世に送り出して来たのです。

ふとチャンネルを合わせたことによって菊地寛の思い出が次々に浮かんできました。我々は彼の文学を読むだけでなく、彼の生命力を養っていかねばならないのではないでしょうか。しかし、私がこのように申すまでもなく合理的な考えを持った人々が多いようですから反対に夢を持ちなさい、そういいたいのかもしれませんね。

言葉の端にも

私は、あるわずかな原則により自分の行動、言の些細な事でも相手の人にどんなに多くの打撃を、喜を与え得るかを思い知らされました。

ただ一生懸命に相手に不快感を与えまいとして私は自分のある面を犠牲にしてまでつくしてきました。それが交友の原則のごとくに守ってきました。しかし、筆を引いていく重大な任務にありながら相手に与える感情など、どうでもよく自分の感情のおもむくままに言行もする人を私は幾人か知りました。相手の感情を大事にする私の考え方、どちらの方が正しいのか私には分りません。

私は、ある一人の人を信頼し、また尊敬の念にも似たものも持っていました。というのは、他の人が言うようにその人には確かに大きな弱点がありました。しかし、それ以上にその人なりの大きな美点があったからなのです。

しかし　その人の弱点はその人の言動の端に出たその小さな言葉のために私の信頼も尊敬の念も消失させたのです。根から引き抜き灰にしてしまったのです。

今までどんなに激しい言葉にもゆるがず、その人の可能性を信じて疑わなかった私なのに、その人のたった十字足らずの言葉によって一変してしまったのです。あのような小さな俗語に、こんなにも大きな威力があったのかと初めて知らされ、そのショックは大きな力で私の胸の中に沈殿していきました。世の中で一番いやなものを見せられたような気がします。

あの人をまた以前のように感じていたい。しかし、私の良心が悪心が、そうはさせてくれないのです。あの十字たらずの言葉のために、あの人は人間の大切な人格を失ったのでしょうか。少なくとも私からはうばったのです。

どちらが正しいとしても、その人が私にこれだけのものを与えた事実は、見のがすことはできません。

私たちの生活上欠くことのできない大切な言葉のために……。

他校訪問

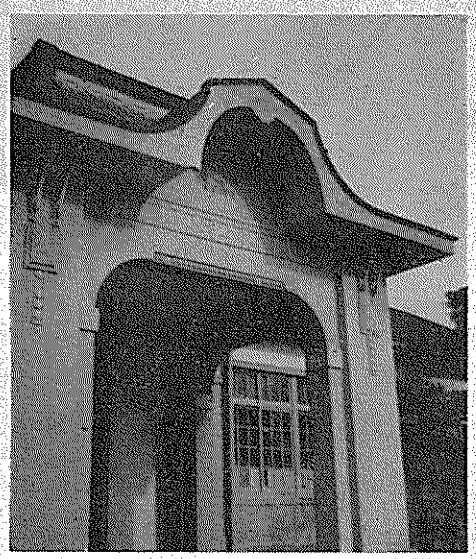
美しい庭園を中に

—宗像高校の巻—

東郷駅から二十分ほど歩いて、右に曲がると宗像高校が見える。最初私達の目に飛込できたものは、校門前に咲き揃ったあざやかなつつじの花だった。このような光景は、校内のいたるところに見受けられたが、なかでも茶室付近に植えられているつつじの花は、すばらしかった。

ここ宗像高校は、大正八年に創立された宗像中学と、大正十五年に創立された宗像実業女学校とが、昭和二十四年八月に統合されて出来たもので、現在五十周年を迎えるにあたって、校舎の全面改築が行なわれており、そこには食堂も出来るそうである。

男女の比は一対一で、一学年に普通科九クラスと被服科一クラスがある。もとは、農芸科もあったそうで、そのなごりをとどめて美しい庭園があった。



校風についてたずねてみると「校風らしきものがないのが校風で、しいてあげると宗校生はのんびりとしています。」ということであった。このことは、落し物が大変多いということからも推察出来るであろう。それに、我校と違って盗難はほとんどないそうである。しかし、その反面、消極的であるという点においては、三蜜（見ザル・言わザル・聞かザル）追放が上げられている。

又、ここの生徒会執行部の選出は我校と少し異なっており、自由立候補制で会長に立候補するには会員五十名以上の署名と先生の承認がいるそうだ。そして、一回目の選挙で過半数に満たない時には、上位二名で決選投票をして会長が決められる。この会長は、あとの副会長二名書記長一名、書記一名、各種専門委員長（風紀、整美、文化、体育、厚生、保健）各一名を指名する。こうして、生徒会執行部が誕生するわけである。

その他の特色としては、運動会の廃止ということだ。これは前の執行部が、まれにみるすばらしい運動会をしたそうであるしかし、その当時はまだ盛難なども多く、それで、執行部がいくら良い仕事をやったとしても一般生徒の方では、ついてきてくれないではないか。それならば運動会などは廃止して、もっと有意義な仕事をやろうというわけで、全校生徒参加のクラスマッチが二日間にわたって行なわれるようになった。又、予餞会やマラソン大会も、無意味であるとか、国道筋に学校があるので、交通量が多くて危険だとかいう理由で廃止されている。

服装の面では、女子は白線・紺ネクタイのセーラー服、男子は長髪自由である。

クラブは体育クラブが十三、文化クラブが十八で、その他にクラブとまではいかない同好会が一つある。現在弓道部が全国大会に出場するほどだそうで、その他にも、ハンドボール部や山岳部も活動が盛んだそうだ。

こうして、私達一行は緑の多い宗像高校を、あとにした。